

### 町職員が文化庁と折衝し、精力的に 保存活動に携わってきたまち

内子概要 愛媛県喜多郡内子町

2005年(平成17年)1月1日合併

面積 299.50 km<sup>2</sup>

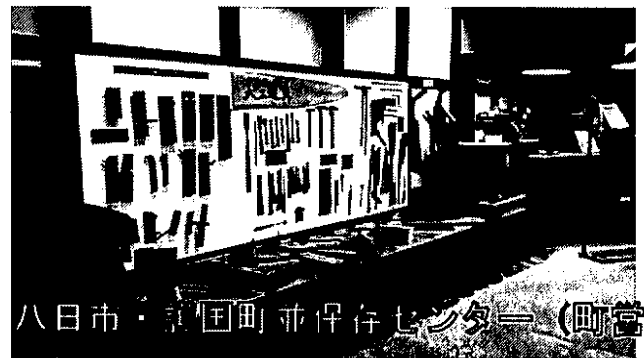
総人口 16,967人

観光客数 60万人/年

- 昭和52年 町による町並み保存調査
- 昭和55年 上芳我邸が木蠟資料館としてオープン
- 昭和57年 重要伝統的建造物群保存地区に選定
- 昭和58年 町長部局に町並み保存対策室設置
- 昭和61年 「知的農村塾」スタート
- 「潤いのあるまちづくり賞」自治大臣表彰
- 昭和63年 町と住民が一体となって展開している町並み保存運動が評価される
- 平成元年 「ふるさと手づくり郷土賞」建設省
- 平成4年 「サントリー地域文化賞」
- 平成6年 「都市景観大賞」
- 平成6年 ヤマモモ通り「新・日本街路樹100選」
- 平成8年 フレッシュパーク「からり」オープン
- 平成12年 道の駅「からり」農林水産大臣表彰
- 「内子町の町並と和ろうそく」環境省100選
- 平成19年 ジャパンベンチャーズ「地域貢献賞」
- 平成21年 ミシュランガイド日本編に一つ星



木蠟生産で財を成した本芳我邸 国指定重要文化財



八日市・護国町並み保存センター(町営)

#### 行政の出先機関 + 保存会事務所

官民協働で町並み保存対策

- 昭和54年 役場内に町並み保存対策プロジェクトチーム設置
- 昭和55年 「白壁とのれんでつくる商店街づくり」計画策定
- 昭和63年 町並み駐車場を整備
- 平成3年 町並み保存対策室を町並み保存対策課に昇格
- 平成6年 農家住宅再生による民宿オープン
- 平成12年 八日市護国町並み保存センター開設
- 平成13年 「内子住まい塾」開講
- 平成14年 「内子商い塾」開講
- 平成19年 「観光交流計画書」策定
- 平成20年 内子町景観まちづくり条例制定



昭和63年町営駐車場完成

# 行政と住民の協働で町並み保存

1. 八日市を中心とした商業町
2. 松山街道の宿場町
3. 製蠶による産業都市

- まちの再生  
商店街の取り組み
- むらの再生 ⇒ むらなみ保存  
石畳むらづくりと高次元農業
- 暮らしの再生  
お山の学校で手仕事体験



平成2年 歴史民俗資料館「商いと暮らし博物館」開館



はいつてみたくなるお店  
和ろうそく実演にたくさんの観光客



官民協働が  
町づくり成功の秘けつ

これからの町並みを考えていく  
「知的農村塾」「商い塾」「住まい塾」

これからは  
行政と住民が現場で  
一緒にやって行きましょう



昭和58年 内子座保存のシンポジウム  
昭和60年 内子座修理復元工事竣工

内子茶屋 吉長

# 防災対策

## 各戸前に消火器

耐震消火栓4基（600m内）

各自治センター（5か所）の防災マップ（別紙）

- 6月 保存対策部員で町並みを巡視。  
水路、水路の草刈り、清掃、案内板  
消防用ホースの格納庫等の改善
- 1月 町並保存地区防災訓練  
消火器、消火栓の使い方講習  
隣近所や観光客等の避難誘導訓練

平成10年伝建地区「総合防災計画」策定

消火器を使った実地訓



各家の前に消火器が設置



伝建地区の景観にあったホース格納庫



↑ 伝建の町並みに似合った消火器・消火栓ホース格納庫

## 時代を先読みし 安全性をアピールした野菜果物づくり

平成8年 内子フレッシュパーク「からり」オープン

10年前から 「知的農村塾」で6次産業を研究

農産物直売・レストラン・農産加工場・ふれあい広場・農村公園

□平成19年 年商2億円 ⇒ □平成25年 年商7億円

- 安心できる減農薬栽培
- 減農薬栽培作物の認証制度（エコうちこ認証シール）
- 生産者が畑で売れ行きが分るシステム

◆開発：手作りアイスクリーム、オリジナルのハム・ソーセージ

◆体験教室：パン、ソーセージ、草木染めなど



# 内子の町並み保存とまちづくりー現状と課題

内子町 八日市・護国町並み保存センター所長 畑野 亮一氏 の説明をきいて

## 愛媛県南予地方 内子町

別府から八幡浜へ向かう宇和島運輸フェリーに乗り込むと、凧の伊予灘は快適な船旅である。細長く突き出た佐田岬半島を河岸線に沿って半時も過ぎると、四国の西の玄関口と言われた八幡浜港に入る。八幡浜市を出て「西の小京都」と呼ばれる大洲の旧城下町に入る。大洲の城下町はNHK朝ドラで放映された「おはなはん」に映し出された武家屋敷と商家が並ぶ歴史的町並みで、肘川の観光「うかい」は多くの人を訪れるが、この町は重要伝統的建造物群保存地区に選定されていない。

カーブの多い大洲街道56号線を約半時間、松山自動車道と交差して内子町に入る。

内子町は、愛媛県南予地方に位置する町である。櫛(ハゼ)の流通で財をなした商家が立ち並ぶ町並み保存を手掛かりに、白壁と木蟻のまちづくりを進めている町である。今日では、町並みから村並みへ、エコロジータウンうちこをキャッチフレーズとして農業景観保全や農産物の直売、農村民宿、グリーンツーリズムなどの交流人口の受け入れ、第一次産業の活性化などの取組で全国的にも有名である。

平成17年に、3町合併して内子町ができ、人口18,000人、面積は300km<sup>2</sup>。

第一次産業が23%、第2次産業 27%、約半数が第3次産業に従事、山林原野が8割を占めている町。

昭和57年、四国ではじめて重要伝統的建造物群保存地区に選定される

この町は、昭和40年代後半から保存運動が始まり、それまでは観光客を町中で見かけることはほとんどないという状況でした。昭和40年代の後半という高度経済成長期の時期で、当時の総合開発計画では、未来の内子町には、ヘリコプターが飛び、モダンな列車が走り、家並みが全部カラフルな新しい住宅に変わっている。夢あふれる総合計画だったようです。

昭和57年にできた「内子町振興計画」では、わずか9年で、未来志向の町並み構想から、伝統的な建物を保存して自然を守って川では釣りを楽しんだり、歴史と自然に親しむ町並みに変わっていった。

多くの人を訪れるようになって、自然と自分の家の前をきれいにしよう！歴史の町並みを残していこうという機運が生まれている。町営の駐車場もでき、地区内に「八日市・護国町並み保存センター」が設置されている。内子町の特徴は

昭和52年 内子町による町並み調査が行われている。

昭和54年 役場内に町並み保存対策プロジェクトチームが設置。

昭和58年 町長部局に町並み保存対策室が設置されている。

昭和63年 町と住民が一体となって展開されている町並み保存運動が評価されている。

平成元年 「ふるさと手づくり郷土賞」を建設省より受賞

毎年のように「サントリー地域文化賞」「都市景観大賞」「新・日本街路樹100選」

「優秀観光地づくり賞」「内子町の町並みと和ろうそく」「地域貢献賞」

「ミシュランガイド日本編に一つ星」など受賞

平成12年 八日市・護国町並み保存センターが、行政の出先機関と町民の保存会事務所、官民協働の推進センターとして設置

さらに特筆すべきは、町のトップが、町並み保存計画を積極的に調査推進し、重伝建保存地区の興亡が、内子町全体の課題と受け止めて、積極的に「まちづくり」に力を入れていることである。

そういうトップと行政、町民との協働意識が、四国の山中の人口2万人たらずの町を、過疎・高齢化を課題におきながら、内子の町が活力を持つ原動力である。さらに「町並み保存事業」から「村並み保存運動」に保存域を拡大している。手作り水車の復元、農村民宿、ツーリズムなど「住民自らが汗をかいて何かをしなければ地域は光っていかない」と住民の計画する事業に一つ50万円の補助金。「いくつ事業をやってもかまいません」この補助金で、女性たちが奮起し、内子の税収アップに貢献している。

年商2億円から7億円へ躍進の「内子フレッシュパーク からり」

30年前から、今後の農業をどうしようかということで、「知的農村塾」を開いて6次産業を研究。

平成8年にオープン。とくに農家の女性(おばちゃんたち)の活躍が目覚ましく年収1千万円をこえる人もいるとのこと。

朝から、警備員が満車の駐車場整理、減農薬野菜・果物・アイス……新鮮な食材、ほしいなあ……